

[掲載紙] ぐんま経済新聞「にちぎんNOW」

[掲載日] 2012年2月23日

[テーマ] 政府の銀行として

確定申告のシーズンです。前橋市の中心部には、臨時の確定申告会場が設けられています。会場近くのコーヒーショップでは、申告書を記入している方の姿も見受けられます。この時期、申告手続きで忙しくしていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

国税庁によると、平成22年、群馬県内での申告納税額は238億円で、47都道府県中15番目の多さでした。人口の全国順位（19位）よりも上位にあります。納税を通じた群馬県民の社会への貢献には、誇るべきものがあると言えるでしょう。

確定申告書類を提出したら、次は税金を納める手続きが待っています。税務署に出向いて納める、金融機関の窓口で納める、振替納税の手続きをとって預金口座からの引き落としで納める。納め方はさまざまです。

どのような方法であっても、群馬県内の税務署や金融機関で納められた国税は、数日後には日銀前橋支店に集められると聞くと、意外に思われるでしょうか。日本銀行の「政府の銀行」としての仕事です。

前橋支店では、集まった資金の金額と納付書等に書かれた金額が一致することを確認した上で、資金を日銀本店にある政府の預金口座に移し替えます。このようにして資金を集中させることで、国の資金を効率的に管理するのです。

申告所得税を含む国税だけでなく、国民年金保険料、交通反則金など国に納める資金は全て同じように扱われます。また年金などの国からの支払いも、日本銀行を通じて行われます。

もっとも、県内全域を日銀前橋支店の一店舗でカバーすることはできません。そこで、県内の金融機関には日本銀行の代理店になってもらっています。代理店のネットワークがあるために、身近な金融機関で国税を納められるのです。

現在、県内には、国に納める資金だけを取り扱う「歳入代理店」が692店舗、国からの資金の支払いも行う「一般代理店」が12店舗あります。

金融機関の出入り口には、その店舗で取り扱っている代理業務の一覧が掲示されています。改めてご覧になると、「日本銀行歳入代理店」という表示を見つけることができるでしょう。そこは、私達と手を携えて、皆さんが国に納める資金をしっかりと取り扱ってくれている店舗なのです。

〔日本銀行前橋支店長〕
竹澤 秀樹